

美術教育講座 西村 大輔 准教授



漢字書法の研究と発信・交流



キーワード 漢字書道 / 書写・書道教育 / 書道文化発信 / 鑑賞教育 / 国際交流 /

どのような研究をなぜ行っているか

書は、中国に生まれ、長きにわたる歴史の中で実用から芸術へと進展し、多くの能書家により様々な名品が生み出されてきました。そして、それらが日本に伝わると、仮名の発明とともに仮名書道という日本独自の書芸術も生み出されました。さらに、漢字・仮名だけでなく、漢字かな交じり書や篆刻、あるいは前衛的な書表現なども含め、現在も書芸術は幅広い分野において、展覧会や学校教育、生涯教育、メディアを通して、広く社会において親しまれ進展し続けています。

私は、こうした広範な書芸術において、「漢字書法研究」や「書写・書道教育」、「書道文化発信」をテーマに掲げ、以下のような研究活動に取り組んでいます。

- ① 漢字書法の研究 ～王羲之を中心として～
書を芸術の域まで高めたと言われる王羲之（中国東晋時代）を中心とする漢字書法の系譜について研究しています。特に、王羲之の書法が後世、中国や日本の各時代の能書家によって、いかに解釈され新たな表現が生み出されてきたのかについて、作品分析や書論、歴史などを通して研究しています。
- ② 学校教育 ～書写・書道教育を中心として～
「学習指導要領等に基づいた小中学校国語科書写及び高等学校芸術科書道における教育研究」や「文字を書くこと見ることに関わる研究」に取り組んでいます。時代とともに変化する学校教育において、「ICTの活用やアクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法などについて教材開発・教育実践」に取り組むとともに、「鉛筆や筆をもって手書きすることや、書かれた文字を見ることそのものの知覚や感受の仕組み」の研究に取り組んでいます。
- ③ 書道文化に関わる様々な活動 ～発信・交流・連携を通して～
書道文化に関わる、展覧会やワークショップ、対話型鑑賞会、ギャラリートークなどの諸活動を企画・実践する活動や研究を通して、書道文化や文字文化の発信に取り組んでいます。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

- ① 漢字書法の研究 ～王羲之を中心として～
王羲之を中心とした漢字書法の研究の成果を活かした実作を、展覧会場において大型作品（16平方尺など）で発信することで、現代の壁面視覚鑑賞にも適う王羲之の書法の展開に貢献したいと考えます。
- ② 学校教育 ～書写・書道教育を中心として～
「書写・書道教育」や「文字を書くこと見ることの研究」の成果を、学会や研究会での発表や、教員養成課程授業の教材に活かすことで、書写・書道教育の質的向上に貢献したいと考えます。
- ③ 書道文化に関わる様々な活動 ～発信・交流・連携を通して～
書道や文字文化の発信や交流、地域社会と連携した活動に取り組むことで、人々が書の伝統や文字文化に親しみ生活を豊かにし、書を含めた伝統や文化を尊重する心の育成に繋がると考えます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・書道展における漢字作品発表
- ・書写・書道教育に関わる講演
- ・書道文化発信の企画展の開催
- ・書道体験ワークショップの開催
- ・書道展のギャラリートーク講師
- ・国際交流活動（中国の大学等）



(図左から) 「王羲之書法に基づく制作」 「葉作りワークショップ」 「漢字ゼミ企画書道展」 「書道展ギャラリートーク」